

ふる〜ぶ

吉野川ファン通信

VOL.108
2009/2

「ふる〜ぶ」はフランス語 (fleuve) で海にそそぐ大河のことです。
ひと、まち、自然、歴史、風景などの吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします。



1
page

〔特集〕

吉野川アラカルト

吉野川源流をたずねて

194kmの流れをもつ吉野川。
その雄大な流れをはぐくむ源流へ、
ふる〜ぶめいとリーダーとともに訪れました

3
page

過去から未来へ

美馬市穴吹町
宮田 礒二さん

4
page

ふる〜ぶ編集部がおじゃましま〜す!

西岡小学校の巻
わたしたちの笑顔と頑張りで
地域を元気にしよう

5
page

ふる〜ぶめいと通信

吉野川源流ツアー
吉野川の源流登山

6
page

源流域からの便り

第8便

ふる〜ぶ INFORMATION

「河川愛護モニター」になりませんか

7
page

よりよい吉野川づくり〈第45回〉

吉野川水系河川整備計画【原案】について

ふる〜ぶひ・ろ・ば

編集後記・プレゼント



タヌキ「ネコ目イヌ科」

樹林やその周り、川などに広くすんでいます。
体の大きさは50cmから60cmくらいで
目の周囲には黒いマスク模様があります。
夜行性で果実や草の根、虫、小動物など
なんでも食べます。

吉野川源流をたずねて

194kmの流れをもつ吉野川。

その源流は高知県と愛媛県の県境付近に位置する瓶ヶ森（標高1,896m）、西黒森山（標高1,861m）、子持権現山（1,677m）の南斜面を水源地帯とする白猪谷溪谷に源を発しています。

吉野川の流域面積は、3,750km²で、四国全体の約20%を占め、

河口幅は約1,300mもある日本有数の大河です。

雄大な流れをはぐくむ吉野川の源流へ。ふる〜ぶめいとリーダーとともに訪れました。



徳島市から吉野川源流登山口までのルート

徳島自動車道を経て松山自動車道を西へ進み、西条インターチェンジを降りて国道194号を通り、高知県の町長沢から県道40号線を西に吉野川沿いに17kmほど上流に進むと寺川神社が見えてきます。神社に向かって右に折れ、次を左に折れ標識に従って向かうと源流橋に到着します。源流橋で車を降り、橋を渡ると源流登山口で徳島市から4時間あまりで到着します。

いざ登山

登山の前夜、少し雨が降り始めたことが気になりましたが、目が覚めたときには何とか曇りでした。「今日は晴れるのでは」希望にも近いようなそんな気持ちで源流登山口へ。登山口の看板を見つけ「よし、行くぞ」と気合をいれて出発。

木々には苔が生え、ビロードのよう。秋の終わりも近く赤や黄色といった色とりどりの落ち葉も美しい森の中を川のせせらぎを聞きながら、どんどん登山道を進んでいきました。

編集部の二人はそれぞれ7年前と4年前に別々に吉野川源流を訪れています。それぞれの記憶をたどりながら

進みましたが、川や風景の美しさは覚えていても、意外と詳細な道は覚えていないものです。

編集部の記憶では「沢渡りと岩登りが中心だった」というイメージばかりで、川の流れを下に眺める道を進んでいると「もしかして間違えた!？」そんな不安も少し出てきました。しばらく行くと谷沿いの道なき道となり、木の橋（もちろん下の川も隙間があるので、よく見えますよ!少しスリリングですが、足元をみて気をつけて歩いていけば大丈夫です）見えてきました。第一回目の沢渡りです。

ふる〜ぶめいとリーダーのみなさんが協力し、ロープを使って順番に渡っていきます。順調順調と思っていたら、編集部はそれぞれおしりから下と、ひざ下を全部水に浸けてしまいました。ですが、一度水に付かると怖いものはありません。沢渡りも怖くなくなりました。

協力しながらすすんでいきます



雨もだんだん降ってきて滑りやすくなりました



雨が降ると木の橋もすべりやすくなるので要注意



だんだんと陰しさをます沢渡り



これから登山スタート!

岩の集団

気がつくとも雨が降ってきている事に気がつきました。冷たい雨。もしかすると途中で引き返すことも想定されましたが、みなさんの「せっかくここまで来たら源流を見たい」そんな思いで進んでいきました。しばらくすると少し晴れ間も見え、順調に登山も進んでいきました。

いくつかの沢渡りを経験し、いよいよ「源流まであと40分」という手作りの木の看板が見えてきたあたりから、ゴロゴロとした岩の集団が見えてき

ました。源流に行くまでにはこの岩を登っていかなくてはいけないのです。

そして、岩登りに必死であり気にしていなかったのですが、雨が霰^{あられ}に変わっていました。足元が滑りやすくなってきましたが、気をつけて歩いて行くと、だんだんと慣れてきて転ぶ回数も減り、道を進んで行くことができました。お互いに気遣いながら協力し、「あと少し」という木の看板がみえてきました。

到着！

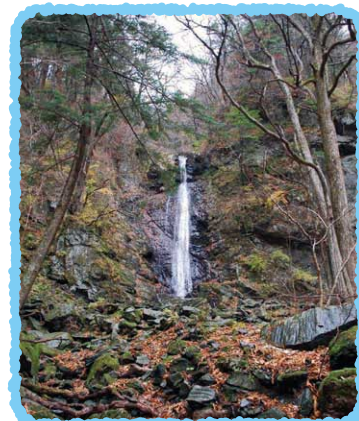


源流へ到着。源流と源流モニュメント

ようやく、源流モニュメントが見えてきました。ゴールまでもう少し。最後に立ちはだかる岩も、よりいっそう滑りやすくなるにつれていました。最後の試練です。でも、ここまで来たら進んで行くしかありません。最後の岩登りも気合で進んでいきました。「やっとついた！」到着した時のうれしかったこと。モニュメントの周辺も雨や霰^{あられ}のため濡

れて滑りやすくなっていたので、交代で記念撮影を行いました。

通常は片道2時間程度で到着すると聞いていましたが、今回は天候の関係もあり往復で5時間ほどかかりました。帰りも同じ道を通るので時々つると転んだりもしましたが、川のせせらぎや木々から元気をもらい戻ることができました。ふる～ぶめいとリーダーのみなさんも「源流から河口まで194kmも続いていると思うと感



源流からさらに約200mほど奥にある滝

激しました。源流にきて今まで以上に水を大切にしたいと思いました」「源流の美しい水や山々や木々など周りの景色に感動しました」など話していただきました。

四季折々に美しい表情をみせてくれる源流。春になるとまた、登ることができます。みなさん、一度、吉野川源流へでかけてみませんか。



吉野川源流。雄大な194kmの流れはここからはじまる



吉野川源流への登山は4月～11月まで。厳しい寒さとなる12月～3月は入山することはできません。片道2時間程度の登山となります。山の天候は変わりやすく、一度雨が降ると足元もすべりやすくなります。前日に雨が降っている場合も同様です。登山道の途中には木に赤や黄色のテープがまいてあったり、環境に配慮された木の看板もあります。決して一人では行かず、グループで行かれることを強くおすすめします。11月後半になると、その年の気候にもよりますが、かなり寒くなります。天候の状況を見て吉野川源流を楽しんでください。

源流への行き方の問い合わせ先

いの町本川総合支所産業建設課 088-869-2115

過去から 未来へ

ふる～ぶが100号を迎えた記念の年として、
取材した方々に再登場していただき、お話を伺っていきます。



写真向かって左から磯二さんのご両親、祖父母、県知事。曾祖父母。
当時、県知事は、今のように、選挙で県民が選ぶ知事ではなく、東京
からやってきた官選知事でした。

ここに1枚の写真があります。

昭和3年4月22日、穴吹橋開通式典の三世代渡り初めの様子です。

この美しい穴吹橋は、今は吉野川にはありません。老朽化に伴い、平成3年旧橋の300m下流に今の穴吹橋が開通した後、撤去されました。

この写真を提供してくださったのが、穴吹駅前の宮田磯二さんです。

以前、登場いただいたのがなんと2000年のVOL10(12月号)。まだふる～ぶが発行されて10号目のことでした。この写真を覚えていらっしゃる方も少ないのではと、再度登場いただきました。

宮田家は、もともと吉野川の川中島のひとつである善入寺島の御出身で、吉野川の第一期改修工事(はらひ)で島を離れました。ご先祖は、原土をしていました。原土とは、徳島藩独特の身分で普段は農業に従事していますが、非常の際には、馬に乗って参戦する郷土(こうど)のことをいいます。

当時は鉄道が物流の中心で、鉄道貨物は、葉タバコや繭、農作物など多くの荷物を運んでいました。運送の仕事をしていた宮田家では、旧穴吹橋の材料も建設現場に運びました。まず、神戸から船で小松島の港に着き、積み替えをしながら穴吹駅まで鉄道で運ばれてきました。それを牛や馬がひっぱる荷馬車に積み替え、建設現場まで運んだのです。

この写真が撮られた日は、多くの方が橋の開通を祝い、記念式典なども行われたそうです。同じ家からの三世代渡り初め。この日は、徳島市内から料理人の方を呼び、たくさんのお客さまを接待したそうです。「先祖の意気込みといいますが、生きざまといいますが、この写真を見るとそんなことを感じますね」と宮田さん。この写真は、宮田家の歴史でもあり、ご先祖の生きた証でもあります。

宮田さんのご自宅は吉野川が目の前。今、国道192号が通っている場所は、



1枚の写真

美馬市穴吹町
宮田 磯二さん

島を離れ、やってきた穴吹。家の歴史は、この写真に写っている磯二さんの曾祖父から祖父へ。祖父から父へ。そして磯二さんへと語り継がれています。

ごつごつした岩場で、その上を歩いて吉野川へ行っていたそうです。もちろん、洪水も多く、浸水した経験も何度もあります。しかし、吉野川は宮田さんにとって朝から晩まで泳いだ子どもの頃の思い出の場所。また、お母さまのお手伝いで、川の岩場にお漬物用の大根を干したり、漬物樽を洗いにいったことも。ご結婚されてからは、お子さんと一緒に遊びに行った場所でもあります。

今回誌面ではご紹介しませんが、旧穴吹橋と吉野川をバックに写る宮田さんと、お子さんの写真を見せていただきました。

今、旧穴吹橋が架かっていた場所より下流30mに、歩行者専用橋『ふれあい橋』がかかっています。



現在のふれあい橋のようす

現在、自転車預かり業をなさっている宮田さん。穴吹駅を降りた学生たちは、宮田さん宅で自転車に乗り換え、吉野川を渡って対岸の高校まで行きます。

吉野川を元気に渡る高校生たち。いつまでも、いつまでも続いてほしい吉野川の風景です。

ふる〜ぶ 編集部が おじゃまします!



校区内に吉野川の絶景のひとつ大歩危溪谷があり、祖谷のかずら橋に向かう観光バスも学校の近くを通過する三好市西祖谷山村の西岡小学校。県外からも多くの観光客が訪れる地域で、学校前の清掃活動なども活発に行われています。全校児童は11人。山田京子校長先生から「素直で明るい子どもたちです。年間を通じてボランティア活動をしています。ぜひお越しください」と連絡をいただきました。学校に到着すると「おはようございます」とみんなが笑顔で迎えてくれました。



秋から冬にかけて見える校区内の山からみた雲海 (提供: 西岡小学校)

西岡小学校では「わたしたちの笑顔と頑張りで地域を元気にしよう!」をテーマにさまざまなボランティア活動を行っています。取材をした日は11月下旬に三好市池田町で開催された「三好市社会福祉大会」で15分間の発表報告を行うためのリハーサルが行われていたところでした。2年生から6年生までの全校児童全員で、原稿を見ないで元気いっぱい練習が進んでいました。



本番さながらに行われていた発表練習

毎年行っているグループホームへの訪問。今年は新しい試みとして、入居者のみなさんの前で西祖谷山村に代々伝えられている「祖谷の粉ひき節」を披露し、入居者の中には涙を流して喜ぶ方もいたそうです。

地域との交流も活発で「三世代交流ゲートボール大会」も恒例の行事です。



3世代ゲートボール大会 (提供: 西岡小学校)

わたしたちの笑顔と頑張りで地域を元気にしよう



緑のカーテンの前で記念撮影 (提供: 西岡小学校)

ゲートボールも教えてもらい、ルールやプレーの仕方を学びました。この時、子どもたちがカレーを作り参加者のみなさんにふるまったそうで、その時の会話から始まったのがゴーヤによる緑のカーテン作りです。少しの数の苗しかないという話を児童がしたところ、地域の方が「家にゴーヤの苗はたくさんあるから持ってきます。是非学校で植えてください」と地域の方々も参加した緑のカーテン作りが始まりました。123本の苗を春に植え、8月には校舎の3Fまで届くほどツルがのび、300個以上のゴーヤが収穫できました。



収穫できたゴーヤを使って、親子料理教室を開催。からあげやゴーヤチップスも作りました (提供: 西岡小学校)



校区内に住む19人の一人暮らしの家を訪問 (提供: 西岡小学校)

収穫したゴーヤを地元の商店で販売してもらい、その売上金で花の苗を購入し、アレンジして寄植えを作ったり、メッセージ付きのカレンダーも作り、一人暮らしをしている方々を訪問してプレゼントしました。



清掃活動の様子 (提供: 西岡小学校)

ボランティアを通じて子どもたちは「地域の方が喜んでくれることも分かったし、一人暮らしの方々から元気をもらった」「言葉の使い方や思いやりの大切さを学んだ」などさまざまな事を感じたようです。「西岡の景色が大好きです」と話していた子どもたち。これからも優しい心を育てていくことでしょう。



「ふる～ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる～ぶ」に提供することにより、吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的にしています。

めいと
レポート

吉野川源流ツアー

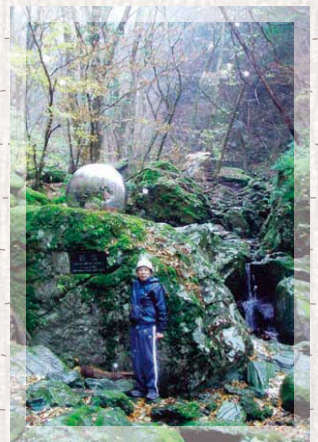
吉野川市 今中 忠重さん

「吉野川の源流を訪ねてみませんか」とのお誘いがあったとき、大河吉野川の源流は一度みてみたかったし、源流をバックにした写真を年賀状にして知人に送れば「間もなく七十一歳になる私、このように元気ですごしていますよ」という知らせにもなる。ということですぐに承諾しました。

「あの早明浦ダムの近くだらう。大したことはないな」と思い込んでいたのが大きな間違い。源流はさらに上の長沢ダムの上流で石鎚連峰の南の山腹にあったのです。源流登山道と書かれた入り口からの道は山腹の掛橋、

渓流の丸木橋や飛び石、巨岩の連続。小雪の舞う中、歩くこと三時間。ついに源流地点のモニュメントに到着できました。

何度も途中で引き返そうとの思いがありましたが、編集部やふる～ぶめいとの方々の手助けで目的が達成でき喜んでおります。



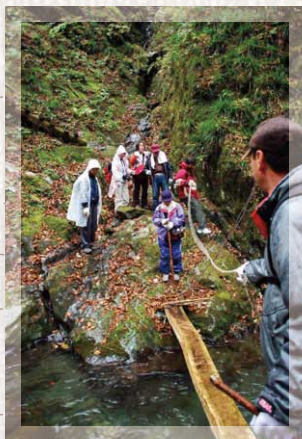
めいと
レポート

吉野川の源流登山

美馬市 長江 順次さん

私は最近山登りをしたことが無かったのですが、今回、ふる～ぶの皆さんと吉野川の源流に登山するという貴重な体験をさせていただきました。

季節は冬に入ろうとする11月中旬の17日、18日の二日間の旅でした。今回、西条市から寒風山トンネルを抜



け山の峰づたいに車で走り「山荘しらさ」で1泊して源流の登山口から登りました。

寒風山トンネルから山荘に至る道は舗装をしていますが、途中から曲がりくねった道に霧がでて視界が悪くドキドキしながら「山荘しらさ」に着きました。やはり、

山の空気は寒く、上着の襟を立てましたが、山荘の薪ストーブの温もりが私たちを温かく迎えてくれました。

また「山荘しらさ」の管理をされているご夫婦の温かいもてなしもすごく良かったです。次の日は朝早く起き、お弁当を作ってもらい出発しました。登山道入口には杖が5～6本置いてあり、これが沢を登る時に大変助かりました。天気は、晴れ、曇り、霰、雨、雪とめまぐるしく変わら大変な天候でしたが、メンバーの皆さんに励まされながら、私はどうにか吉野川の源流まで約3時間かけてたどり着くことが出来ました。大変な思いはしましたが、その後のご褒美はすばらしく、森林や谷川のマイナスイオンは、色々な日常のストレスを洗い流してくれるような、心が洗われる思いがしました。あらためて、自然のすばらしさや大切さを感じた二日間でした。



源流域からの便り

第 8 便

このコーナーでは、吉野川源流域に住む方々に暮らしや四季のうつろいを、綴っていただきます。

誰が何と言おうと、吉野川流域で河口から一番遠いところで生活しているのは私たちの家族です。私の職場兼住まいは、吉野川の最源流の瓶ヶ森(標高1,896m)にほど近い山荘。4月から11月までの8か月間は標高1,400mの山荘で家族4人、スタッフ、高知大インターンの学生たちと生活をしながら山荘を営んでいます。

子供たちは毎朝夕、車とバスで片道1時間半の道のり、標高差1,000mを通園通学していることは偉いものです。

そもそも、長崎の海辺で生まれ育ち、スキューバダイビングのインストラクターを職業としていた私が、全くかけ離れた山のでっぺんで生活していることが私自身も不思議でしょうがないのですが、海の荒廃は山の荒廃が起因としているのを知り、すべての生命の源である水源を保全する関わりをしていきたいという思いが起り、



山荘の前より望む冬の石鎚山

山荘のスタッフ

「川を汚さない」「私達源流に住むものの最大の義務。子や孫の時代まで「美しい吉野川、美しい地球環境を残す」これが私たちの願いです。

目標とした「かき殻を使った汚水の浄化」です。

吉野川最源流の村、高知県旧本川村の林業会社に転職をしたことが始まりです。2年間の「山師」をへたのち、林業会社の社長の「あなたは今もつと世間の役に立つことをしなさい」という一言で、3年前やり手のいなくなった旧村営の山荘しらすを経営することになりました。環境に配慮した山荘経営という方針の下、洗剤、ゴミ、エネルギーの問題などに取り組んできましたが、現在、高知大学の学生と進めていることは、全国への普及を

小森 隆一さん

長崎県佐世保市出身

高知県の町在住

山荘しらす代表

5年前名古屋より家族4人と

旧本川村へ移住

ふるふ3姉妹の Information

募集

「河川愛護モニター」になりませんか ～吉野川や流域の川の状態を教えてください!～

徳島河川国道事務所では、平成21年度の河川愛護モニターを募集しています。河川愛護モニター制度は、流域住民のみなさまにご協力をいただき、河川整備、河川利用や河川環境に関する地域の要望を十分に把握し、地域との連携をさらに進め、あわせて河川愛護思想の普及啓発及び河川の適正な維持管理を行う事を目的に実施しています。みなさん是非応募してください。

応募期間 平成21年2月6日(金)より平成21年3月5日(木)

応募人数 吉野川・旧吉野川・今切川 29名(各活動範囲毎1名程度)

モニター嘱託期間 1年間(平成21年4月1日より平成22年3月31日まで)

応募資格 満20歳以上の方で、河川に接する機会が多く、河川愛護に関心を持ち、モニターとしての活動を積極的に実行でき、希望される活動範囲内の市町に居住し、かつ担当する河川よりおおむね5km以内に居住する方。

応募方法

当事務所HP又は当事務所、各河川沿川の当所出張所及び市町(旧町)の窓口においてある応募用紙で郵送、FAX、Eメールで応募して下さい。直接持参して頂いても構いません。

送付先

国土交通省徳島河川国道事務所河川占用調整課
〒770-8554 徳島市上吉野町3丁目35番地
FAX:088-654-9267
URL:<http://toku-mlit.go.jp/>
E-mail:tokusa55@skr.mlit.go.jp

お問い合わせは

徳島河川国道事務所 河川占用調整課 ☎088-654-9270 まで

吉野川水系河川整備計画【原案】について

平成20年12月24日公表

吉野川水系河川整備計画の策定に向けての「吉野川学識者会議」。「吉野川流域住民の意見を聴く会」、「吉野川流域市町村長の意見を聴く会」、パブリックコメントの取り組みにより、多くの方からいただいた素案に関する意見をできる限り反映し、吉野川水系河川整備計画【原案】を作成しました。

平成19年10月16日に公表した吉野川水系河川整備計画【再修正素案】から修正した主な概要は次の通りです。



【原案】



考え方



要旨

①地球温暖化に対する取り組みについて

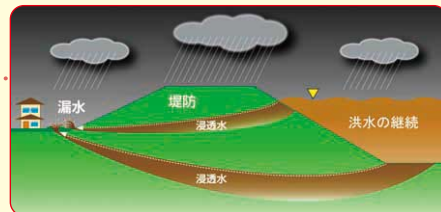
平成20年6月に社会資本整備審議会より「水災害分野における地球温暖化に伴う気候変化への適応策のあり方について」の答申がなされ、基本的な方向性が示されました。地球温暖化に伴う気候変化により、洪水、高潮、渇水リスクの増大、河川環境の変化等が見込まれており、今後、吉野川水系においても「適応策」について、必要なものから取り組む旨を追記しました。

【原案P41、P46、P56、P58、P122、P134】

②旧吉野川・今切川の浸透対策について

旧吉野川・今切川などの堤防点検については、平成19年度末までに、堤防の安全性の照査を完了したので浸透対策の記述を追加し結果を反映しました。

【原案P32、P72、P106】



浸透破壊のメカニズム

③地震対策について

東南海・南海地震を対象として、吉野川では、津波による浸水被害が懸念される河口部の国管理の排水門（樋門・樋管）の耐震対策について、耐震性を検証し、耐震補強等の必要な対策を実施するとともに、河口部の堤防についても被害状況等の検討を行い、必要な対策を行うこととしています。また、旧吉野川・今切川についての堤防等河川管理施設の耐震対策についても、必要に応じて堤防等河川管理施設の被害状況と地震後の浸水被害状況等の検討を行い、必要な対策を行います。このような予想される大地震に対する整備の考え方を明確にするため、河川整備計画の大規模地震関係の箇所を修正しました。

【原案P30、P32、P72、P74、P96、P108】

パブリックコメントの募集(平成21年3月15日まで)

【原案】に関するご意見について、はがきまたはインターネット等により募集しています。詳しくは、吉野川水系河川整備計画のホームページ、または吉野川流域の国土交通省、その他関係機関及び市町村の窓口を設置している「ご意見募集チラシ」をご参照ください。

ホームページアドレス: <http://www.yoshinoriver.info/>



ご意見募集チラシ

公聴会の開催予定(なお、公述人の募集は平成21年1月23日で締め切っています)

平成21年2月14日(土) 下流域(徳島市)会場

13:00~17:00(傍聴定員/150名)
徳島県建設センター7階 鶴の間(徳島県徳島市富田浜2-10)

平成21年2月15日(日) 中流域(美馬市)会場

13:00~17:00(傍聴定員/100名)
四国三郎の郷 交流体験棟(徳島県美馬市美馬町字境目39-10)

平成21年2月22日(日) 上流域(土佐町)会場

13:00~17:00(傍聴定員/100名)
土佐町保健福祉センター(高知県土佐郡土佐土居206)

ふる〜ぶ
ひる〜ぶ
は

ふる〜ぶ編集後記



久しぶりの吉野川源流。天候のせいもあったのですが以前の倍くらいの時間がかかってしまいました。前回は丸太橋なんて、ひよいひよいと越えられたのになあなんて思いつつ、到着した源流。この水が下流まで流れているのだなあと感慨にふけりつつ、また、下ることのこを思っ、ちょっぴりしんどくなってしまった私なのでした。(か)



久しぶりの吉野川源流。川のせせらぎを聞きながら森の中を歩いていると自然の元気をもらいました。違う季節に行ってみたいです。(や)



お手玉プレゼント



ふる〜ぶめいりリーダー上田佳裕さんからいただいたお手玉を抽選で1名様にプレゼントします。(2個)ご希望の方は、はがきまたはFAXに住所、氏名、電話番号、誌面の感想もお書きのうえご応募ください。締切は2月27日(金)です。それぞれ模様が違う手作りですので、発送の際には、写真とお手玉の模様が異なる場合もあります。

プレゼント応募先 〒771-1156 徳島市応神町応神産業団地13-28
ふる〜ぶ編集部「お手玉」プレゼント係



ふる〜ぶは、吉野川流域の市町村役場、図書館、博物館、公民館等の公共施設および道の駅、株式会社阿波銀行の一部の支店と株式会社ファミリーマートの一部の店舗に置かせていただいています。皆様ご愛読ください。